

沖縄キリスト教学院大学自己点検・評価・改善委員会
(編・著)

2009年度 前期

学生による授業評価報告書

巻頭言

第1章 授業評価の概要

第2章 科目・クラス別評価

第3章 自由記述による授業評価

沖縄キリスト教学院大学

2009

Introduction to the term end questionnaire results

Randy Thrasher, President

The term-end questionnaire serves two general purposes. The most important one is that it allows each teacher to see how the students evaluate his or her class. This part of the data is being shared with the individual teachers and it is my hope all teachers will reflect on these results and, if they indicate a need to improve, that they will consider ways to give the students a higher level of satisfaction. I also expect that the Dean and Department Chair will help newer teachers understand the questionnaire results and provide useful advice to those teachers whose results show a need to improve. The other purpose of the term-end questionnaire is to provide a general picture of student satisfaction with the teaching we offer them. It is for this purpose that the data and comments here are provided.

The results for all classes show the same overall pattern that we have had for the past several years. A comparison of the mean result for each question shows almost no change over the past three years. This is good news in that the students continue to show a general high level of satisfaction with their classes; the same level of satisfaction that has been obvious in previous years. However it also shows that we have not made much progress in improving those areas in which we need to improve. Although two thirds of the students feel that the lectures are understandable, there are still a third of the students who think the teachers could do better. In my comments last year I asked the teachers to try to help the students better understand the purpose of the class and how they were going to teach it. However, I could not find the improvement I had hoped to see in this area.

The same difference in level of satisfaction can be seen in the results from question 17. Most students were sufficiently satisfied with the classes they took to be willing to take another from the same teacher. But the large standard deviation shows that this is not true for all of their teachers.

The other area in which I could not find any improvement was in the amount of homework the students do. In previous years I have urged both teachers and students to make improvement in this, but the amount of work the students do outside of class remains too little. Teachers need to assign more homework and students need to take greater responsibility to study outside of class to get the most from each class that they are taking.

Overall, all teachers are doing a reasonably good job, but there is room for improvement and I hope that the teachers and administrators can work together to find ways to overcome the weaknesses that these results show.

巻頭言

2009 年度 前期 学生による授業評価報告書

学 長 ランドルフ スラッシャー

学期末に行われる学生による授業評価には、2つの目的があります。第一に、教師に、学生がどのように自分の授業を評価したかを知らせるという目的です。評価の結果は、その教師の授業のありようを映していると考えられます。そして、もし、評価が改善の必要性を示しているのであれば、学生を満足させるより良い方法を考えなければなりません。学部長や学科長は、新任の教員に対し、アンケートとその結果を説明しなければなりません。特に、改善を要する結果を得た場合は、適切なアドバイスを与えることが必要です。第二に、本学での授業に対し、学生の満足度を概観するという目的です。この冊子に収められたデータは、この目的を良く裏付けるものとなっています。

全クラスについてですが、過去数年間、同じ結果が出ています。各質問に対する結果の平均値は、過去3年間変化がありません。これは良い評価だといえます。即ち、学生はすべての授業において高い満足度を示していることを意味します。これは、データの数値が前学年度と同じであることから明らかです。しかし、これは、もう一つの意味をも示しています。即ち、改善すべき箇所を手がけなかったということです。3分の2の学生は、授業は理解できると指摘していますが、3分の1の学生にとっては、先生に授業をもっと分かりやすくしてほしいと望んでいるということになります。昨年、私は、私のコメントとして先生方に、学生が授業の目的をもっと良く理解するように取り組んでほしいと述べました。しかし、残念ながら、この点における改善を見るに至っておりません。

質問17「私は、この先生の別の科目も受講したいと思います。」の結果には、同じような現象が見られます。ほとんどの学生は、受講した先生の授業に満足し、同じ先生の別の授業も取りたいと希望しています。しかし、標準偏差値を見ますと、すべての教師に当てはまるものではないことがわかります。

別の箇所で、改善が見られないものに学生への宿題の量があります。私は、これまでに、この点に関して教師にも学生にも忠告してきました。授業外での宿題の量が今でも少なすぎます。先生方は、もっと宿題を出し、学生は授業外でも責任を持って学ぶべきものです。

授業評価を概観しますと、先生方は、比較的に良い授業を行っているといえます。でも、まだ改善の余地はあります。先生方も管理職者も共に、この授業評価の結果で指摘された欠点を受け止め、克服すべき良策を見出す努力を望みます。

沖縄キリスト教学院大学

自己点検・評価・改善委員会委員

(2009年度 前期)

スラッシャー, R. H. (委員長・学長)

山里 恵子 (委員・人文学部長)

金 永秀 (委員・宗教部長)

城間 仙子 (委員・教学部長)

上原 明子 (委員・入試部長)

高崎 正名 (委員・キャリア開発部長)

仲地 弘善 (委員・図書館長)

伊佐 雅子 (委員・英語コミュニケーション学科長)

仲門 勇市 (委員・事務局長)

評価委員会

(2009年 前期)

スラッシャー, R. H. (委員長・学長)

山里 恵子 (委員・人文学部長)

大城 亘武 (委員)

近藤 功行 (委員)

本浜 秀彦 (委員)

浜川 仁 (委員)

沖縄キリスト教学院大学
2009年度・前期
学生による授業評価報告書

第1章

学生による授業評価概要

はじめに

2009年7月に、前学期の学生による授業評価を実施した。77科目、114クラスについての授業評価のデータ、延べ3,375件が得られた。通年科目の「卒業研究」については割愛した。

1 学生による授業評価の概要

評価は17の視点(項目)から行っている。(調査票は章末に掲げてある) そのうち16項目は5段階法で評定し、1項目は6段階法である。評価の基準はつぎの通りである。

5:非常にそう思う

4:そう思う

3:どちらとも言えない

2:そう思わない

1:全くそう思わない

なお、Q15については;

5:3時間以上

4:2時間くらい

3:1時間くらい

2:30分くらい

1:ほとんどしなかった

Q16については;

5:秀

4:優

3:良

2:可

1:不可

0:わからない

以下に結果について述べる(分布表Q1~Q17参照)。まず、Q1~Q17について凡例を述べる。表中「度数」は、1~5(または0~5)のそれぞれに評価した人数である。「パーセント」は、その度数の全3,375延べ件数に対する比率を示している。「有効パーセント」は、「システム欠損値」除いた延べ件数に対する比率である。「システム欠損値」とは、無回答のことである。「累積パーセント」は、有効パーセントを積み上げたものである。

なお、本文では有効パーセントの数値について述べ、その際少数第1位を四捨五入し

て示すことにする。

Q1「授業の目的」は、「5」評価の比率が70%を超え、良好である。「4」評価と合算すれば90%を超えている。ただこの項目は「講義要項」のシラバスに明記されている事柄でもあり、本来ならば学生各自がシラバスを読んでいけば特別な説明は不要、とも考えられる。ということをお勧めするとあまり「良好」ともいえないかも知れない。

Q2「成績評価の方法」は、「5」評価が70%（少数第1位を四捨五入、以下同じ）であり、まあ、良好だと考えられる。ちなみにこの「5」評価と「4」評価を合算すると90%となる。成績評価の方法については、「講義要項」のシラバスに明記されており、クラスで取り立てて説明を要しないとも考えられる。100%の者が「5」と評価しなければならない項目ではある。

Q3「先生の授業への熱意」に対する評価は「5」評価が79%、「4」評価（14%）と合算すれば93%となる。学生は教員の授業への熱意を高く評価している、といえる。

Q4「わかりやすい」については62%が「5」の評価をしている。なお、「4」「5」評価を併せると82%ほどになる。「1」および「2」評価を併せた比率は約6%である。授業の分かりやすさの点では、かなり満足度が高いようである。ただし、不満が若干あることを心する必要がある。とはいえ、大学の講義が「わかりやすい」ことを重点に評価することの問題も考慮する必要がある。すなわち、大学の講義は分かりやすければよいのか？と、問うことも必要であろう。

Q5「準備がよい」については「5」評価の比率は約73%、「4」評価を加えると92%もの学生が教員の授業の準備のよさを認めている。すなわち教材研究が十分になされていることを示唆するものであろう。

Q6「理解興味の工夫」は、多様な背景を持つ学生を対象に教育を行なっている以上考慮されるべき事柄である。約67%の学生が「5」と評価している。どのような創意工夫であるかについては第3章の「自由記述」の評価を参照されたい。「1」「2」評価を合算すると4%になる。

Q7「時間どおり」は、「講義が時間どおりに始まり時間どおりに終わる」というのはごく当たり前のことである。しかしながら講義内容の「区切り」の都合で終了チャイムを無視することもあるだろう。学生たちの評価は「5」が76%、「4」評価が約14%である。当然の約束事として時間どおりに始まり時間どおりに終わることは議論の余地がない。しかし、2%の学生（「1」ないし「2」の評価をした者）が不満を表明していることには気をつけなければならないだろう。

Q8「質問の機会」があるかどうかについては良好な評価である。68%の受講生が「5」の評価をしている。「4」評価との合算では88%である。「1」および「2」評価を併せた比率は3%である。この設問では詳らかにしないが、「与えられた質問の機会」を十分に活用しているかどうかは問われないといけないだろう。すなわち、質問を促されても質問が出ないことがあるかもしれない。

Q9「授業妨害への対処」については、教員はかなり適切な対処をしていると思われる。「5」評価の比率は64%である。授業妨害とは授業中における私語、ケータイの着信音、メールの送受信、立ち歩き、居眠り、教場抜け出し、あるいは授業外作業等のことである。これらの振る舞いは「学びからの逃走」である。この評価項目は授業運営のうち「管理機能」に属する。受講生を授業に集中させるための教員の権能をより発揮することが求められている、と考えられる。勿論、学生は授業に集中し、参加する事が求められているのはいうまでもない。

Q10この授業を他の学科、大学の学生にも受講を「薦めたい」に対する「5」評価の比率は約64%である。「4」評価が約20%あるので84%の学生がその授業を高く評価していると推測される。すなわちこのような講義は自分だけで終わらせるのは「もったいない」誰かに受講を薦めたい気にさせる講義である、と推測されるからである。

以上の評価項目は、教員に対するものであった。Q11からQ15は、学生自身の自己評価項目である。

Q11「熱意を持って参加」は、学生自身の「授業への熱意」を自己評価したものである。62%の学生が「5」の評価をしている。「4」評価と合算すると85%の受講生が「熱意を持って」授業に参加していることになる。授業にあまり熱意の持てない「1」および「2」と評価した受講生の比率を合算すると3%になる。

教員の「授業への熱意」についての「5」評価の比率が79%だったのに対して自己評価の62%を比べるとかなり低い自己評価のようである。反省のあるいは謙虚な評価であろうか。

Q12「シラバス参考」への「5」評価は約47%である。「4」評価が約20%なので合算して約67%となる。「1」および「2」評価を合算すると11%である。シラバスを参考にしていない学生は3分の2程度である。積極的な利用が求められるところである。シラバス（講義要項）の効能は論議するまでもない。シラバスをちゃんと読んでおれば「授業の目的」や「評価方法」などに理解が行き届くであろう。学生のシラバス利用を促進する手立てを考えないといけない。

Q13「授業を中座しない」、Q14「遅刻欠席はない」、「Q15「予習復習時間」は学生自身の「受講態度の自己評価」の項目である。

Q13「授業を中座しない」の「5」評価の比率は66%である。「4」評価が約22%ある。「1」および「2」評価の比率を合算すると2%である。

Q14「遅刻欠席ない」は約63%が「5」の自己評価をしている。「4」評価が20%、両者を合算すると83%となる。一方「2」および「1」評価を合算した比率は4%である。何らかの事情で止むを得ず遅刻欠席するのはやむをえないことである。ここでは遅刻回数を質問していないのでその頻度については詳らかにしない。

Q15「予習復習時間」で「5」と回答した者の比率は4%である。「5」評価とは、

週当たり3時間以上の自習をすることである。1科目あたりの週当たりの予習復習時間で一番多いのは「1」評価の「ほとんどしない」であり（33%）、ついで「2」評価の「30分ぐらい」（31%）である。両者で64%となる。「システム欠損値」すなわち無回答者の比率が5%ある。1時間の講義に対して前後1時間の自学自習で「1単位」を構成する。本学の授業時間の1時限は90分であり、これが15回行なわれて「2単位」になる。つまり週に1回の授業科目であれば少なくとも講義時間外に180分の学習が想定されている。上の結果は学習時間の極端な短さを示している。このような状況で本学の教育（講義）が展開されている。これは教育機関としての根幹に関わる深刻な事態である。予習復習等の自学自習の習慣を形成させる必要がある。

Q16「全体的評価」については、「無回答者」の比率が約2%ある。また、「分からない」とした者が2%ある。これらを除いて算出した「5」評価が52%である。「4」評価は29%である。両者の合計は約80%である。低評価（「1」ないし「2」評価）が5%ほどある。「3」「4」「5」評価の合算では95%になる。一応及第点であろう。

Q17同じ先生の「別の科目も受講したい」という評価項目は、授業の印象の強さ、すなわち授業の「キレ」を推測するのに有効だろうと考えられる。「無回答者」等が5%ある。これを除いた集計では、61%が「5」の評価を行い、21%が「4」の評価をしている。両者で82%である。逆に「1」ないし「2」と評価した者は約6%ある。まずまず、良好な評価といえるだろう。

Q1授業の目的

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	11	.3	.3	.3
	2	28	.8	.8	1.2
	3	222	6.6	6.6	7.7
	4	639	18.9	19.0	26.7
	5	2468	73.1	73.3	100.0
	合計	3368	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.2		
	合計	3375	100.0		

Q2成績評価方法

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	13	.4	.4	.4
	2	58	1.7	1.7	2.1
	3	276	8.2	8.2	10.3
	4	657	19.5	19.5	29.9
	5	2357	69.8	70.1	100.0
	合計	3361	99.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	14	.4		
	合計	3375	100.0		

Q3先生の熱意

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	5	.1	.1	.1
	2	31	.9	.9	1.1
	3	186	5.5	5.5	6.6
	4	475	14.1	14.1	20.7
	5	2676	79.3	79.3	100.0
	合計	3373	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	.1		
	合計	3375	100.0		

Q4わかりやすい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	56	1.7	1.7	1.7
	2	137	4.1	4.1	5.7
	3	408	12.1	12.1	17.8
	4	695	20.6	20.6	38.4
	5	2078	61.6	61.6	100.0
	合計	3374	100.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	1	.0		
	合計	3375	100.0		

Q5準備よい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	11	.3	.3	.3
	2	42	1.2	1.2	1.6
	3	228	6.8	6.8	8.3
	4	620	18.4	18.4	26.7
	5	2472	73.2	73.3	100.0
	合計	3373	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	.1		
	合計	3375	100.0		

Q6理解興味の工夫

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	21	.6	.6	.6
	2	103	3.1	3.1	3.7
	3	342	10.1	10.2	13.8
	4	659	19.5	19.6	33.4
	5	2242	66.4	66.6	100.0
合計		3367	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	8	.2		
合計		3375	100.0		

Q7時間どおり

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	13	.4	.4	.4
	2	54	1.6	1.6	2.0
	3	209	6.2	6.2	8.2
	4	482	14.3	14.3	22.5
	5	2614	77.5	77.5	100.0
合計		3372	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	.1		
合計		3375	100.0		

Q8質問の機会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	27	.8	.8	.8
	2	83	2.5	2.5	3.3
	3	304	9.0	9.0	12.3
	4	658	19.5	19.5	31.8
	5	2299	68.1	68.2	100.0
合計		3371	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	4	.1		
合計		3375	100.0		

Q9授業妨害へ対処

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	32	.9	1.0	1.0
	2	80	2.4	2.4	3.3
	3	391	11.6	11.6	15.0
	4	707	20.9	21.1	36.0
	5	2148	63.6	64.0	100.0
合計		3358	99.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	17	.5		
合計		3375	100.0		

Q10薦めたい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	52	1.5	1.5	1.5
	2	93	2.8	2.8	4.3
	3	389	11.5	11.5	15.8
	4	667	19.8	19.8	35.6
	5	2170	64.3	64.4	100.0
	合計	3371	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	4	.1		
	合計	3375	100.0		

Q11熱意を持って参加

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	20	.6	.6	.6
	2	90	2.7	2.7	3.3
	3	391	11.6	11.6	14.9
	4	797	23.6	23.7	38.5
	5	2071	61.4	61.5	100.0
	合計	3369	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	6	.2		
	合計	3375	100.0		

Q12シラバス参考

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	170	5.0	5.1	5.1
	2	212	6.3	6.3	11.4
	3	726	21.5	21.6	33.0
	4	677	20.1	20.2	53.2
	5	1573	46.6	46.8	100.0
	合計	3358	99.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	17	.5		
	合計	3375	100.0		

Q13授業を中座しない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	12	.4	.4	.4
	2	60	1.8	1.8	2.1
	3	345	10.2	10.2	12.4
	4	728	21.6	21.6	34.0
	5	2222	65.8	66.0	100.0
	合計	3367	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	8	.2		
	合計	3375	100.0		

Q14遅刻欠席ない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	23	.7	.7	.7
	2	124	3.7	3.7	4.4
	3	410	12.1	12.3	16.7
	4	675	20.0	20.2	36.8
	5	2112	62.6	63.2	100.0
	合計	3344	99.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	31	.9		
合計		3375	100.0		

Q15予習復習時間

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	1070	31.7	33.4	33.4
	2	982	29.1	30.6	64.0
	3	774	22.9	24.2	88.2
	4	256	7.6	8.0	96.2
	5	122	3.6	3.8	100.0
	合計	3204	94.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	171	5.1		
合計		3375	100.0		

Q16全体的評価

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	29	.9	.9	.9
	2	131	3.9	4.0	4.9
	3	478	14.2	14.6	19.5
	4	938	27.8	28.7	48.3
	5	1689	50.0	51.7	100.0
	合計	3265	96.7	100.0	
欠損値	0	53	1.6		
	システム欠損値	57	1.7		
	合計	110	3.3		
合計		3375	100.0		

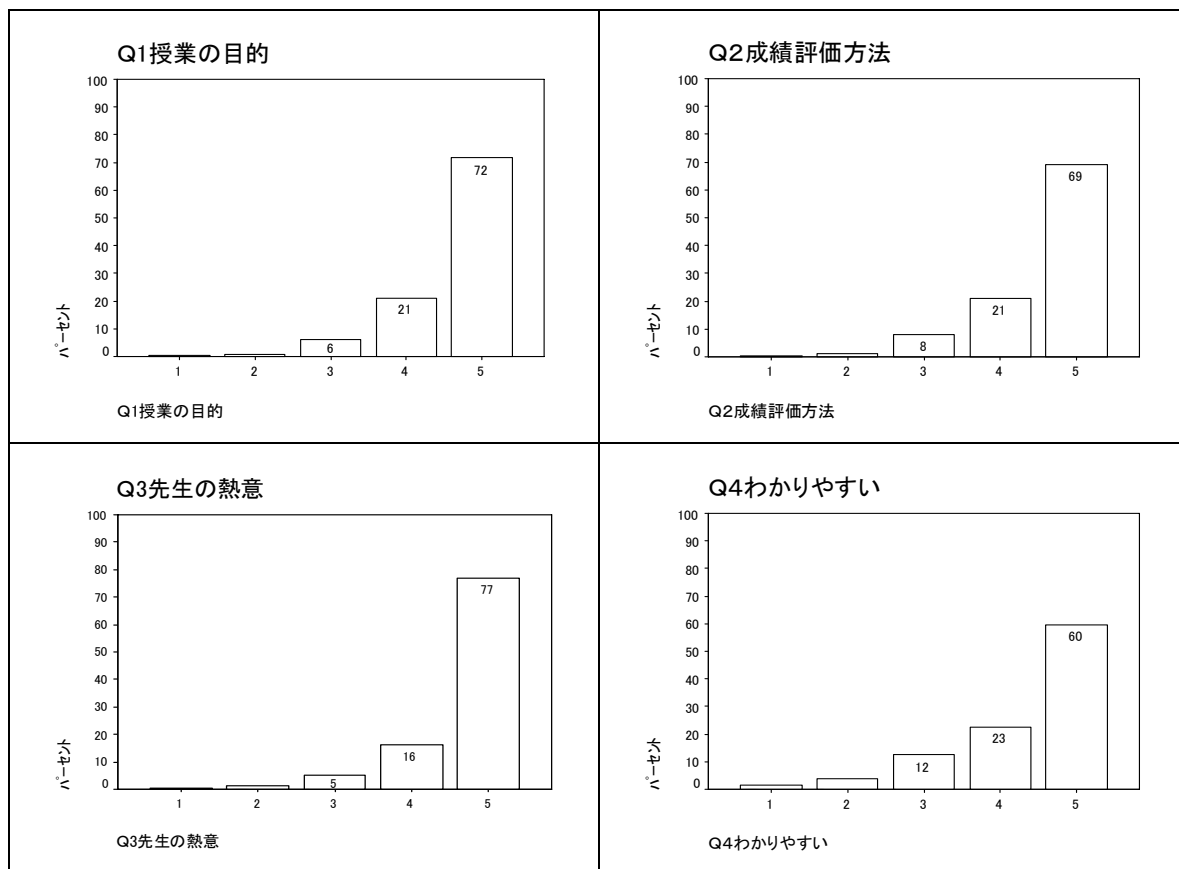
Q17別の科目も受講したい

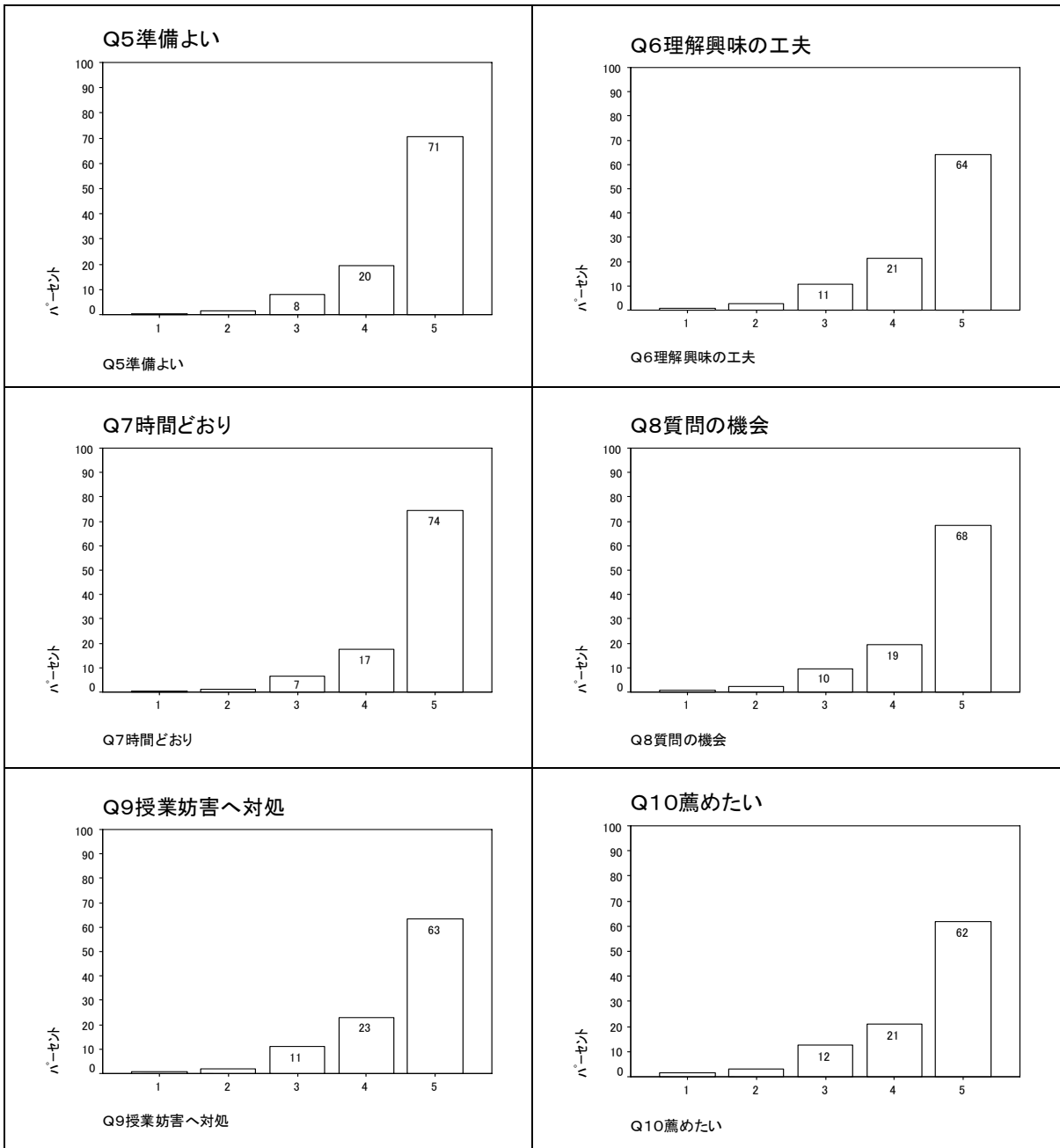
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	102	3.0	3.2	3.2
	2	103	3.1	3.2	6.4
	3	385	11.4	12.0	18.4
	4	661	19.6	20.6	38.9
	5	1963	58.2	61.1	100.0
	合計	3214	95.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	161	4.8		
合計		3375	100.0		

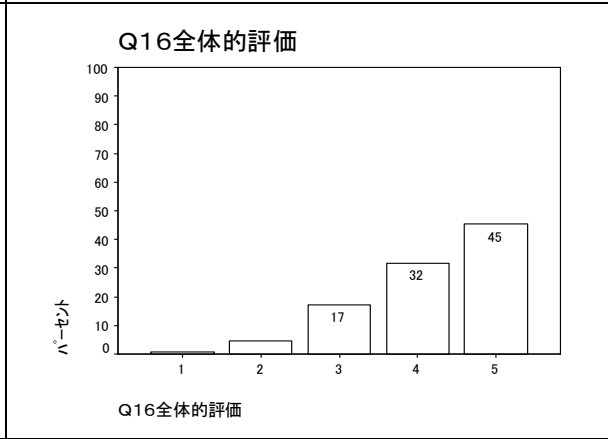
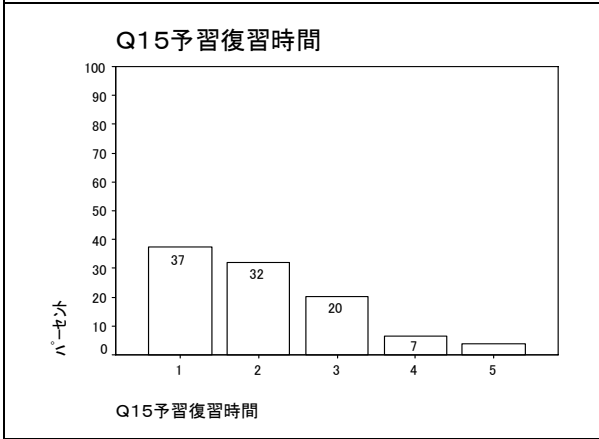
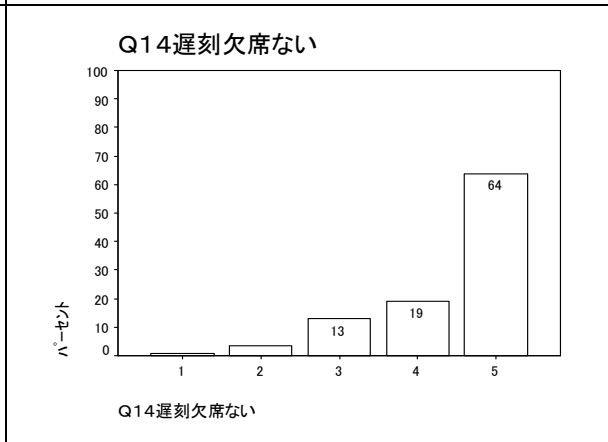
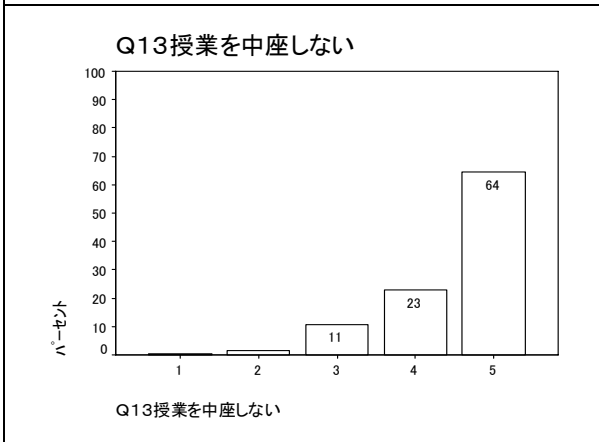
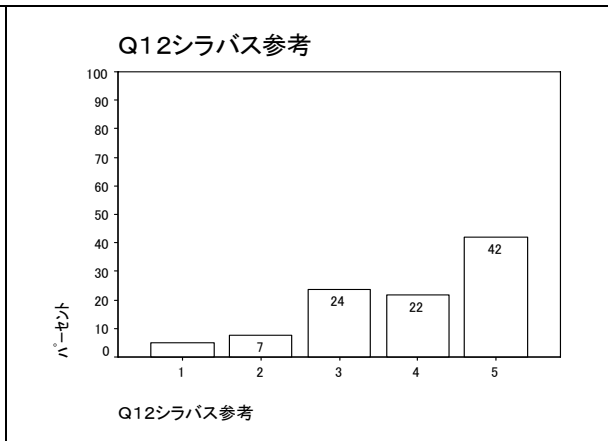
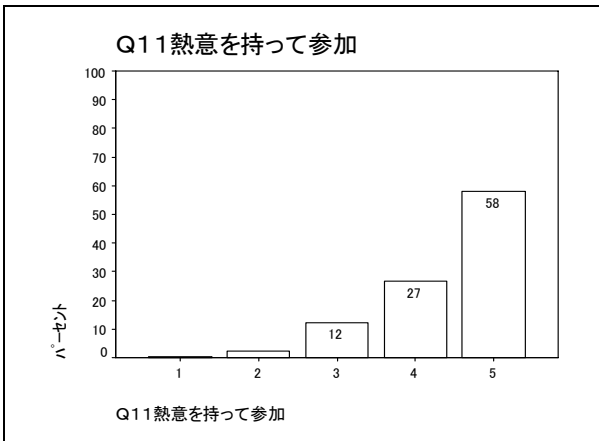
以下の図は、上に掲げた度数分布をもとに、グラフ化したものである。（Q 1～Q 1 7を参照） 評価の様態の把握の参考になるだろう。

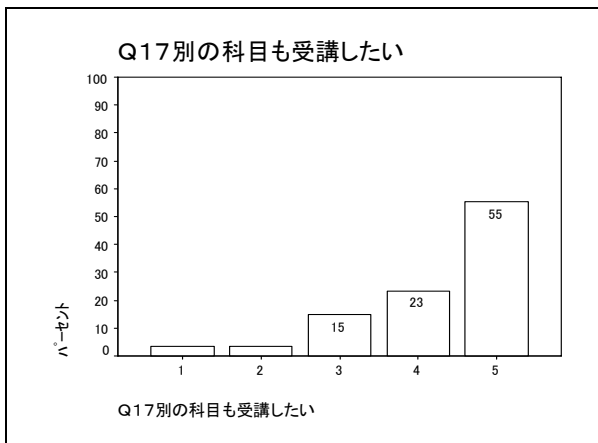
教員要因の9項目（Q 1～Q 9）の分布は、ほぼ逆L字型になっている。これは、評価段階の「5」ないし「4」評価の度数が高いことを意味する。したがって、教員評価において、特にそのクラス管理の技能的側面が良好であるとの評価を受けていることになる。

一方、学生自身の自己評価の項目を見ると、Q 1 1（熱意をもって授業に参加）、Q 1 3（授業中の中座）およびQ 1 4（遅刻欠席）は、ほぼ逆L J型であり、授業への参加については自己管理ができていているように思われる。Q 1 2（シラバス参考）は、やや右肩上がりのフラットであり、シラバスが学習活動にあまり利用されていない状況を表している。Q 1 5（予習復習時間）は右肩下がりであり、勉強にあてる時間が少ない。約7割の学生の授業時間外の学習をしていない、という結果である。









授業そのものへの評価としては、Q16（全体的評価）は、Q15と合わせ鏡のようになっている。約7割が高い評価をしているが、評価できないとする学生がいくらか存在する。授業満足の一つの指標と考えられるQ12（別の科目も受講したい）は、やや右肩上がりを示し、約8割ほどの学生がかなりの満足を示しているように考えられる。

以上、評価段階ごとの出現頻度を中心に、学生による授業評価の概要を評価段階のデータを中心にみた。

2 評定結果（基本統計量）

5段階評価の1～5をリッカートタイプとして扱い、平均値や標準偏差等の基本統計量を求めた。次ページに、全科目・クラスを一括して分析した。つぎに掲げる統計表は平均値の高い順に示した。度数が、項目により異なるのは無回答者がいたためである。

記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q3先生の熱意	3373	1	5	4.72	.622
Q7時間どおり	3372	1	5	4.67	.698
Q1授業の目的	3368	1	5	4.64	.672
Q5準備よい	3373	1	5	4.63	.694
Q2成績評価方法	3361	1	5	4.57	.748
Q8質問の機会	3371	1	5	4.52	.821
Q13授業を中座しない	3367	1	5	4.51	.778
Q6理解興味の工夫	3367	1	5	4.48	.844
Q9授業妨害へ対処	3358	1	5	4.45	.859
Q11熱意を持って参加	3369	1	5	4.43	.842
Q10薦めたい	3371	1	5	4.43	.909
Q14遅刻欠席ない	3344	1	5	4.41	.891
Q4わかりやすい	3374	1	5	4.36	.957
Q17別の科目も受講したい	3214	1	5	4.33	1.017
Q16全体的評価	3265	1	5	4.26	.914
Q12シラバス参考	3358	1	5	3.97	1.180
Q15予習復習時間	3204	1	5	2.18	1.098
有効なケースの数 (リストごと)	2972				

平均値で見れば、「予習復習時間」（2.18）、「シラバス参考」（3.97）を除く15項目で4.20以上の評価となっている。

全17項目中教員要因であるQ3「授業への熱意」がもっとも高い評価となっている（4.72）。教員要因の評価についてはすべて4.3以上であり、平均値で見れば優れた授業が展開されていることになろう。またQ16「全体的評価」は4.26であり、一応及第点である。

学生要因では、Q13「授業の中座しない」（4.51）、が最高の自己評価で、「予習復習時間」（2.18）が最低値となっている。

標準偏差値でもって、評価の散らばりを見ると、[予習復習時間]（1.098）、「シラバス参考」（1.180）、「別の科目も受講したい」（1.017）が1.00を超えている。すなわちこれらの項目は評価にバラツキが大きいということである。標準偏差がもっとも小さいのは「先生の熱意」である。「先生の熱意」は受講生にとって評価の一致度が高いということである。教員の授業における「熱意」は衆目の一致するところである、といえよう。

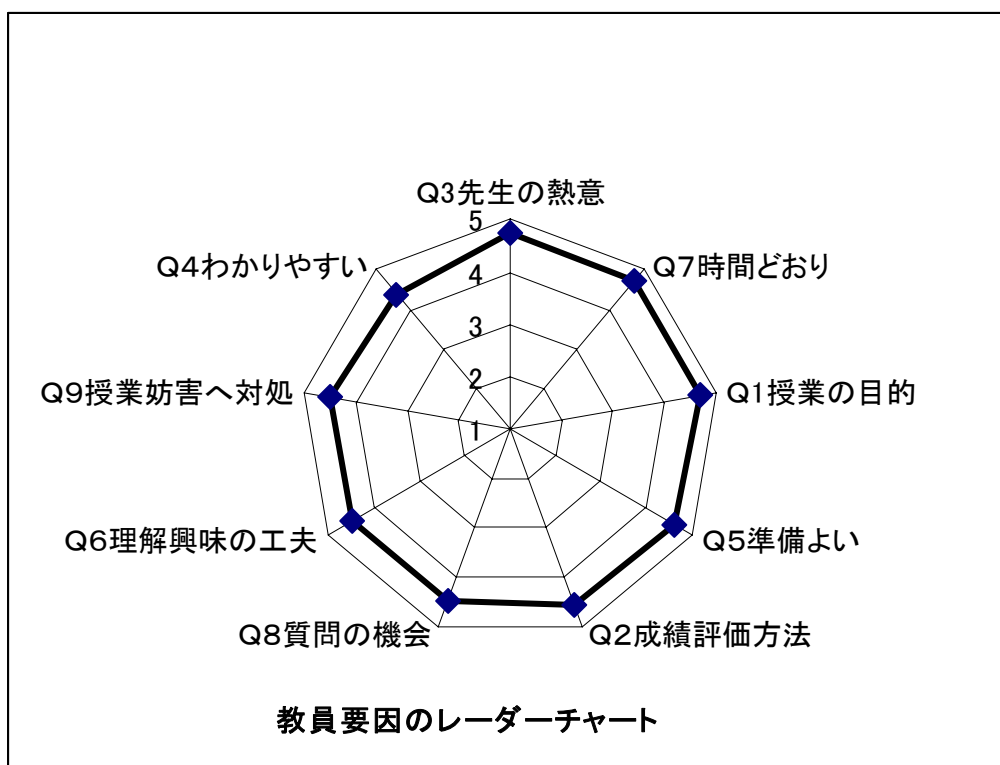
以上の結果から、本学の授業の課題は2つに絞ることができよう。シラバス利用と、講義時間外の学習量の少なさ、である。

3 レーダーチャート

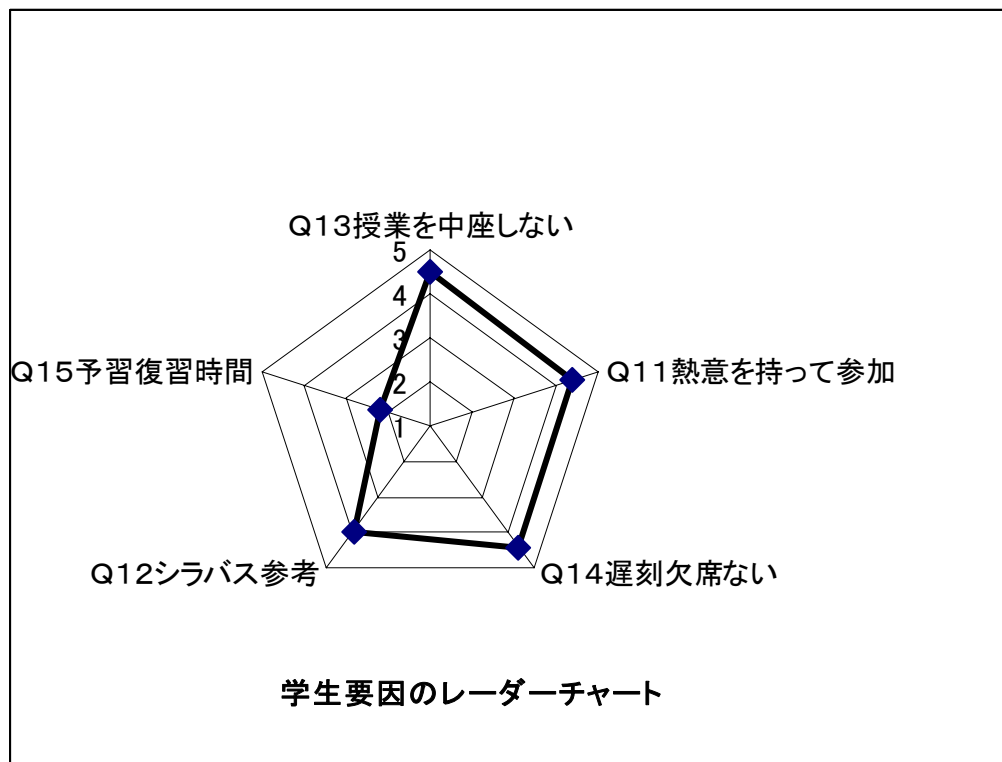
つぎに、教員要因、学生要因それぞれについてレーダーチャートを示す。時計回りに

平均値の高い順に示してある。

教員要因を見ると、いずれの項目も4以上の評価がなされ、かなりバランスが取れているように見える。ただし、Q4（分かりやすい）は、9項目中一番低い評価となっており、教員に課せられた授業改善点は、より「Q4わかりやすい」へ授業の努力であることがわかる。また、Q9（授業妨害への対処）は、クラス管理の問題として、改善点があるということであろう。



学生要因を見ると、学生の予習復習等の時間の少なさが指摘できる。加えて、シラバス利用の少なさも課題である。



4 自由記述による評価（改善点を中心に）

自由記述による評価は4つのパートからなる。授業の良い点、授業の改善点、授業の感想、学長へ言いたいこと、である。ここでは「改善点」について述べる。個々のクラスへの評言は第3章を参照されたい。

もっとも目立つ改善希望は、授業進度が速いということである。「説明が分かりにくい」「難しい」という訴え、「もっとゆっくり」などという要望が寄せられている。

先生だけが一方的に話し、単調で眠気を催させるので、学生参加型の授業の工夫が求められている。講義開始の前に講義を始める、あるいは修了のチャイムがなくても講義をし続けることへの不満もある。

課題が多いという指摘がかなりある。テキスト選択にも注文が出されている。「レベルに合った」テキストを望んでいる。

クラス運用については、私語や居眠りへの注意をするようにとの指摘がされている。改善点は総じて「特になし」等が散見される（516件、約15%）。また、記載のないのが大部分である（229件、68%）。

以上のことは、全体的なことであり、担当教員、科目、クラスによって状況は大きく異なる。第3章の自由記述による評言を参照されたい。

5 授業評価の年度間比較

本学は、2004年の開学時より学生による授業評価を実施している。ここでは、完

成年度、すなわち1学年から4学年の全学年が揃った2007年度から2009年度の3年間の前期における授業評価の経年比較を行う。

統計処理は、評価項目をリッカートタイプとみなし、平均値の比較を分散分析法を適用した。次に評価項目ごと、年度ごとに基本統計量を掲げる。年度の、7、8、9はそれぞれ、2007年、2008年、2009年を表す。

まず、

年度間評価の、度数、平均値、標準偏差

項 目	年度	度数	平均値	標準偏差
Q1 授業の目的	2007	2396	4.6	0.70
	2008	2915	4.6	0.71
	2009	3368	4.6	0.67
	年度合計	8679	4.6	0.69
Q2 成績評価方法	2007	2395	4.5	0.78
	2008	2913	4.5	0.78
	2009	3361	4.6	0.75
	年度合計	8669	4.6	0.77
Q3 先生の熱意	2007	2396	4.7	0.63
	2008	2913	4.6	0.71
	2009	3373	4.7	0.62
	年度合計	8682	4.7	0.66
Q4 わかりやすい	2007	2398	4.4	0.95
	2008	2909	4.3	1.02
	2009	3374	4.4	0.96
	年度合計	8681	4.3	0.98
Q5 準備よい	2007	2395	4.6	0.73
	2008	2912	4.6	0.77
	2009	3373	4.6	0.69
	年度合計	8680	4.6	0.73
Q6 理解興味の工夫	2007	2396	4.5	0.85
	2008	2916	4.4	0.92
	2009	3367	4.5	0.84
	年度合計	8679	4.5	0.87

前ページのつづき

項 目	年度	度数	平均値	標準偏差
Q 7 時間どおり	2007	2396	4.7	0.69
	2008	2913	4.6	0.71
	2009	3372	4.7	0.70
	年度合計	8681	4.7	0.70
Q 8 質問の機会	2007	2396	4.6	0.81
	2008	2909	4.5	0.84
	2009	3371	4.5	0.82
	年度合計	8676	4.5	0.82
Q 9 授業妨害へ対処	2007	2382	4.4	0.82
	2008	2910	4.4	0.87
	2009	3358	4.5	0.86
	年度合計	8650	4.4	0.85
Q 1 0 薦めたい	2007	2394	4.4	0.91
	2008	2912	4.3	1.00
	2009	3371	4.4	0.91
	年度合計	8677	4.4	0.94
Q 1 1 熱意を持って参加	2007	2396	4.4	0.84
	2008	2909	4.3	0.90
	2009	3369	4.4	0.84
	年度合計	8674	4.4	0.86
Q 1 2 シラバス参考	2007	2385	4.0	1.18
	2008	2902	3.9	1.17
	2009	3358	4.0	1.18
	年度合計	8645	4.0	1.17
Q 1 3 授業を中座しない	2007	2395	4.5	0.79
	2008	2909	4.4	0.85
	2009	3367	4.5	0.78
	年度合計	8671	4.5	0.81
Q 1 4 遅刻欠席ない	2007	2390	4.4	0.88
	2008	2903	4.3	0.96
	2009	3344	4.4	0.89
	年度合計	8637	4.4	0.91

前ページのつづき

項 目	年度	度数	平均値	標準偏差
-----	----	----	-----	------

Q 1 5 予習復習時間	2007	2314	2.3	1.22
	2008	2797	2.2	1.13
	2009	3204	2.2	1.10
	年度合計	8315	2.2	1.14
Q 1 6 全体的評価	2007	2336	4.2	0.91
	2008	2777	4.1	0.98
	2009	3265	4.3	0.91
	年度合計	8378	4.2	0.94
Q 1 7 別の科目も受講したい	2007	2295	4.3	1.00
	2008	2764	4.2	1.11
	2009	3214	4.3	1.02
	年度合計	8273	4.3	1.05

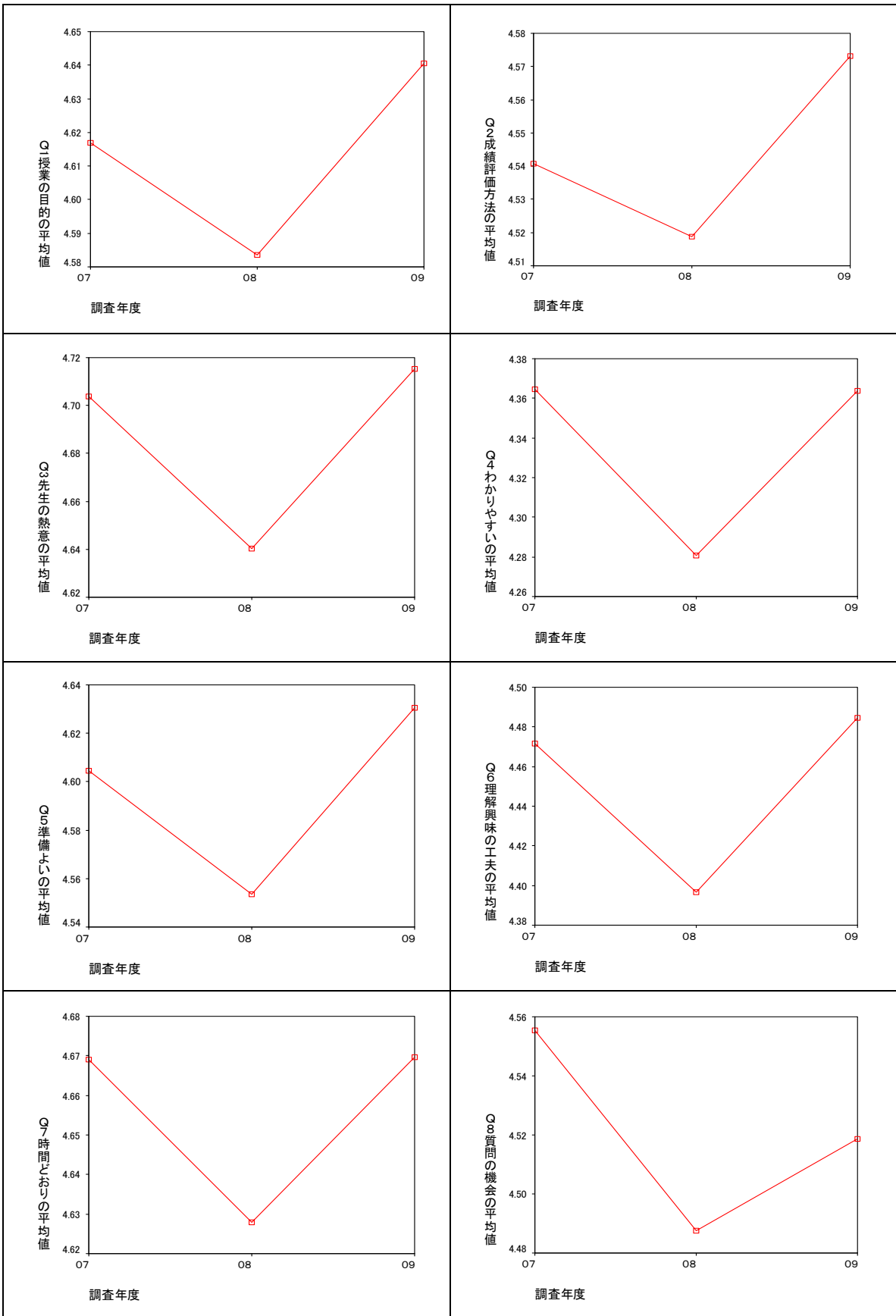
つぎに、分散分析の結果を掲げる。表中、有意確率の欄で値が、0.05より小さければ、平均値間に違いがあることを意味する。この基準で結果を見ると、Q9（授業妨害への対処）、Q12（シラバス参照）で、平均値に違いがないことが分かる。

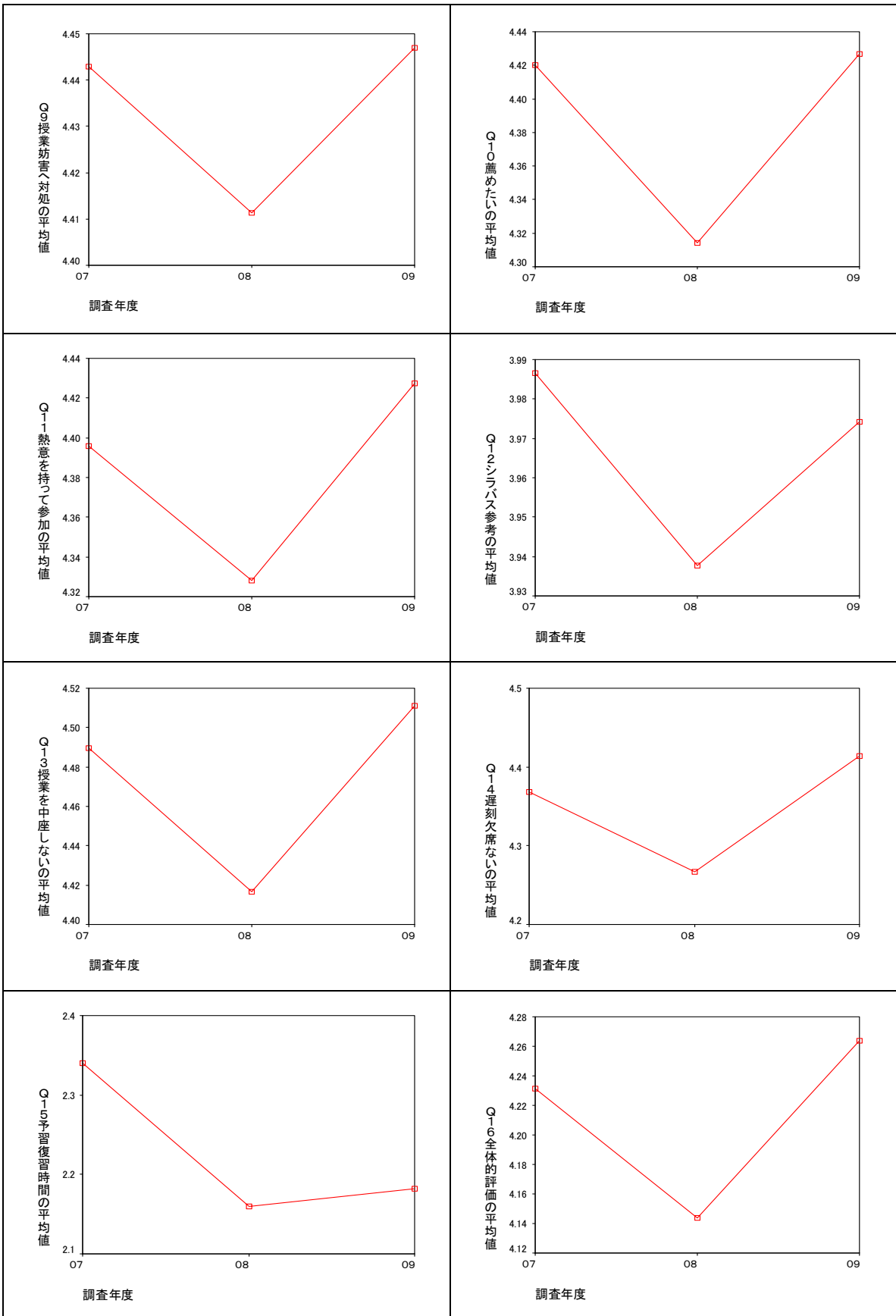
分散分析表

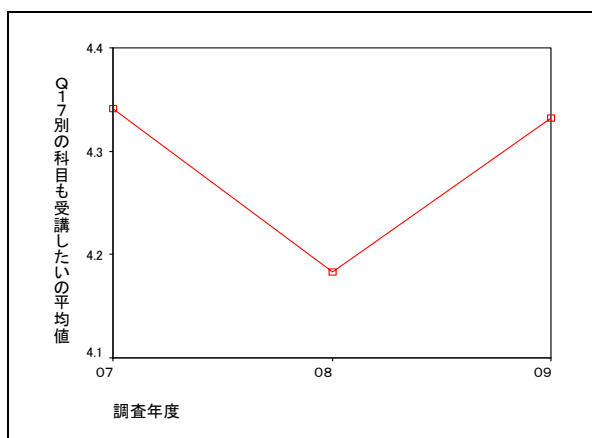
		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
Q1授業の目的	グループ間	5.074	2	2.537	5.291	.005
	グループ内	4160.261	8676	.480		
	合計	4165.334	8678			
Q2成績評価方法	グループ間	4.695	2	2.347	3.984	.019
	グループ内	5106.329	8666	.589		
	合計	5111.023	8668			
Q3先生の熱意	グループ間	9.755	2	4.878	11.376	.000
	グループ内	3721.344	8679	.429		
	合計	3731.099	8681			
Q4わかりやすい	グループ間	13.539	2	6.769	7.100	.001
	グループ内	8273.615	8678	.953		
	合計	8287.154	8680			
Q5準備よい	グループ間	9.434	2	4.717	8.856	.000
	グループ内	4621.915	8677	.533		
	合計	4631.349	8679			
Q6理解興味 の工夫	グループ間	13.458	2	6.729	8.881	.000
	グループ内	6573.724	8676	.758		

	合計	6587.182	8678			
Q7時間どおり	グループ間	3.335	2	1.668	3.387	.034
	グループ内	4273.129	8678	.492		
	合計	4276.464	8680			
Q8質問の機会	グループ間	6.086	2	3.043	4.482	.011
	グループ内	5888.001	8673	.679		
	合計	5894.086	8675			
Q9授業妨害へ対 処	グループ間	2.250	2	1.125	1.554	.211
	グループ内	6258.425	8647	.724		
	合計	6260.675	8649			
Q10薦めたい	グループ間	23.427	2	11.714	13.186	.000
	グループ内	7705.478	8674	.888		
	合計	7728.905	8676			
Q11熱意を持っ て参加	グループ間	15.804	2	7.902	10.692	.000
	グループ内	6408.558	8671	.739		
	合計	6424.363	8673			
Q12シラバス参 考	グループ間	3.562	2	1.781	1.292	.275
	グループ内	11914.028	8642	1.379		
	合計	11917.589	8644			
Q13授業を中座 しない	グループ間	14.809	2	7.405	11.390	.000
	グループ内	5634.866	8668	.650		
	合計	5649.676	8670			
Q14遅刻欠席な い	グループ間	34.513	2	17.257	20.823	.000
	グループ内	7155.189	8634	.829		
	合計	7189.703	8636			
Q15予習復習時 間	グループ間	48.085	2	24.043	18.433	.000
	グループ内	10841.862	8312	1.304		
	合計	10889.948	8314			
Q16全体的評価	グループ間	22.579	2	11.289	12.925	.000
	グループ内	7315.264	8375	.873		
	合計	7337.843	8377			
Q17別の科目も 受講したい	グループ間	42.849	2	21.424	19.644	.000
	グループ内	9019.344	8270	1.091		
	合計	9062.193	8272			

17項目中15項目で平均値に違いが認められた。では、どの様に違うのか。つぎに折れ線グラフで示す。







グラフに見るように、Q15（予習復習時間）を除いて、ほぼV字パターンを示している。すなわち、2008年度の評価が2007年および2009年に比して低いのである。大学が完成年度を終え、いよいよ名実ともに4年制大学がスタートする初年度の2008年度の評価が前年度より落ち込んでいる。これが何に起因するのか現時点では明確でない。ただし、落ち込んでいるとはいえ、Q12、Q15を除いて5段階の4以上の評価は維持しており、極端な低下ではない。また落ち込みの程度も、微小な範囲にとどまっている。翌2009年度には評価は2007年度レベルに回復している。なぜそうなったのかについて、理由は詳らかではない。

2007年度より評価が高まった項目は皆無である。高くはないが低くもない。2007年度まで評価が回復したということである。

Q15（予習復習時間）は、2007年度（2.34）、2008年度（2.16）、2009年度（2.18）である。2009年度は微かに持ち直しているように見えるが、2007年度レベルには回復していない。2007年度以降、学生は「勉強しなくなっている」ことになる。

おわりに

全体で見れば、教員要因としては9評価項目すべてが「4」以上の評価結果であり良好な授業（教育）が行われていることを示すものであろう。このうち授業の「分かりやすさ」は4.0を超えてはいるが9項目中一番低い値となっている。授業が「分かりやすく」なればもっと高い評価が得られるであろう。ただし、多様な学力の学生を対象としている為、困難な課題ではある。

学生要因としては「予習復習」などの時間が少ないことが課題である。「分かる」ための準備としての予習復習などを期待したいところである。これらの知見を日常の教育、クラス運営にどう生かしていくのか、それぞれの教員の考えるべき課題である。

自由記述の評言を見ると、多様な意見が寄せられており、それらの改善要望に真摯に向き合うことによって、授業の改善が可能となるであろう。

2007年度から3年間の評価の推移を見ると、2008年度に落ち込みが見られる。2009年度には2007年度の水準にまで回復している。ただし、学生自身の「予習復習時間」は2点レベルにとどまっており、これは1科目あたり、1週間あたりの学習時間が30分程度であることを意味するのであり、さらに、学習へ動機づける必要がある。

学生による授業評価について

調査期間： 前期 7 月
後期 1 月
調査対象： 全クラス

学生みなさまへ：

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはありません。「成績」に影響を及ぼすようなことはありません。またプライバシー保護については十分留意します。

率直な（真摯な）評価をお願いします。

自己点検・評価委員会委員長
沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

※ 記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

PART I 設問 1～17 について、評価欄のあてはまる数字（5～1）に○をつけてください。

評価の基準： 5 非常にそう思う 4 そう思う 3 どちらとも言えない 2 そう思わない 1 全くそうは思わない

		5	4	3	2	1
1. 先生は、学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。	評 価 欄					
2. 先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。						
3. 先生は、授業について熱意がありました。						
4. 先生の授業は、とてもわかりやすかった。						
5. 先生の授業の準備はよくできていました。						
6. 先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。						
7. 先生の授業は、時間どおりに始まり、時間どおりに終わりました。						
8. 授業でわからないことを質問できる機会や工夫がありました。						
9. 先生は、授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。						
10. 私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するよう薦めたい。						
11. 私は、この授業に熱意をもって取り組みました。						
12. 私は、授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。						
13. 私は、授業中、私語や携帯電話（メール等）・中座など、授業を乱すような行為はしませんでした。						
14. 私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。						
15. 私は、この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。 ※当てはまる数字に○をつける。						
5 (3 時間以上) 4 (2 時間ぐらい) 3 (1 時間ぐらい) 2 (30 分ぐらい) 1 (ほとんどしなかった)						
16. この授業を全体的に評価してください。 ※当てはまる数字に○をつける。 5 秀 4 優 3 良 2 可 1 不可 0 わからない						
17. 私は、この先生の別の科目も受講したいと思います。						

科 目 名	ク ラ ス 名 ()			
学 籍 番 号 *				男
学 年	1	2	3	4
所 属 学 科	1 英語科		2 保育科	
	3 英語コミュニケーション学科			
	4 科目等履修生			
入 試 区 分	1 一般入試	2 推薦入試	3 AO 入試	

* (学籍番号) できるだけ記入してください。

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

(裏面に記入)

1. この授業のよい点
2. この授業に改善してほしい点
3. この科目や担当者の授業方法について、感想・意見・印象に残ったこと。
4. 学長へ（聞いてほしいこと）

(裏のページへ進んでください⇒)

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

※この記述は統計的に処理され、この回答用紙を担当教師が直接に閲覧することはありません。

1. この授業のよい点													
2. この授業に改善してほしい点													
3. この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと。													
4. 学長へ（聞いてほしいこと）													